

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第16週（4月18日～4月24日）

## 今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

### 定点把握感染症

「感染性胃腸炎 さらに増加」

第16週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は825例であり、前週比24.4%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.85、0.42、0.31、0.25、0.18である。

感染性胃腸炎は前週比17%増の562例で、南河内4.69、大阪市北部3.71、中河内3.50、北河内3.35、泉州3.30であった。

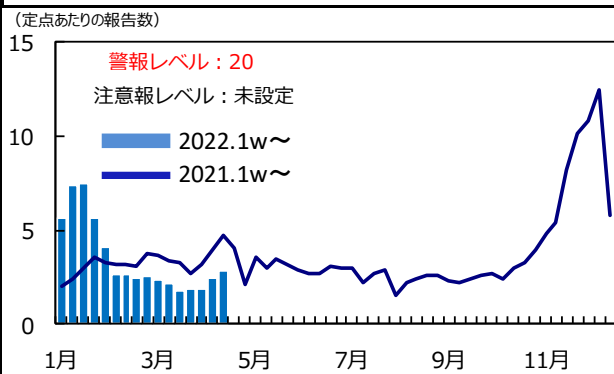
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%増の62例で、中河内0.90、大阪市南部0.67、大阪市北部0.43である。

RSウイルス感染症は75%増の49例で、中河内0.80、大阪市西部0.70、大阪市北部0.43であった。

咽頭結膜熱は89%増の36例で、堺市0.42、泉州0.40、大阪市北部0.29である。

4月から新たに集団保育に参加した乳幼児は各種の感染症に罹患する機会が増えるため、今後の発生動向に注意する必要がある。

感染性胃腸炎



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

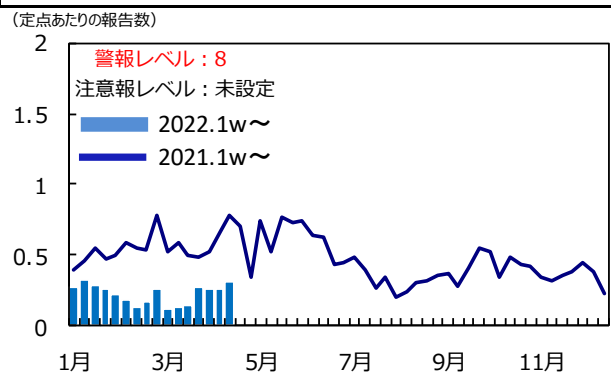


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第16週4月18日～4月24日）

第16週の順位	第15週の順位	感染症	2022年第16週の定点あたり報告数	前週比増減	2021年第16週の定点あたり報告数	2022年第16週の年齢別患者発生数最大割合
1	1	感染性胃腸炎	2.85	17%増	4.73	1歳_19%
2	2	突発性発しん	0.42	49%増	0.49	1歳_57%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.31	19%増	0.78	5歳_19%
4	4	RSウイルス感染症	0.25	75%増	3.86	1歳_35%
5	5	咽頭結膜熱	0.18	89%増	0.16	1歳_31%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

## 第16週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

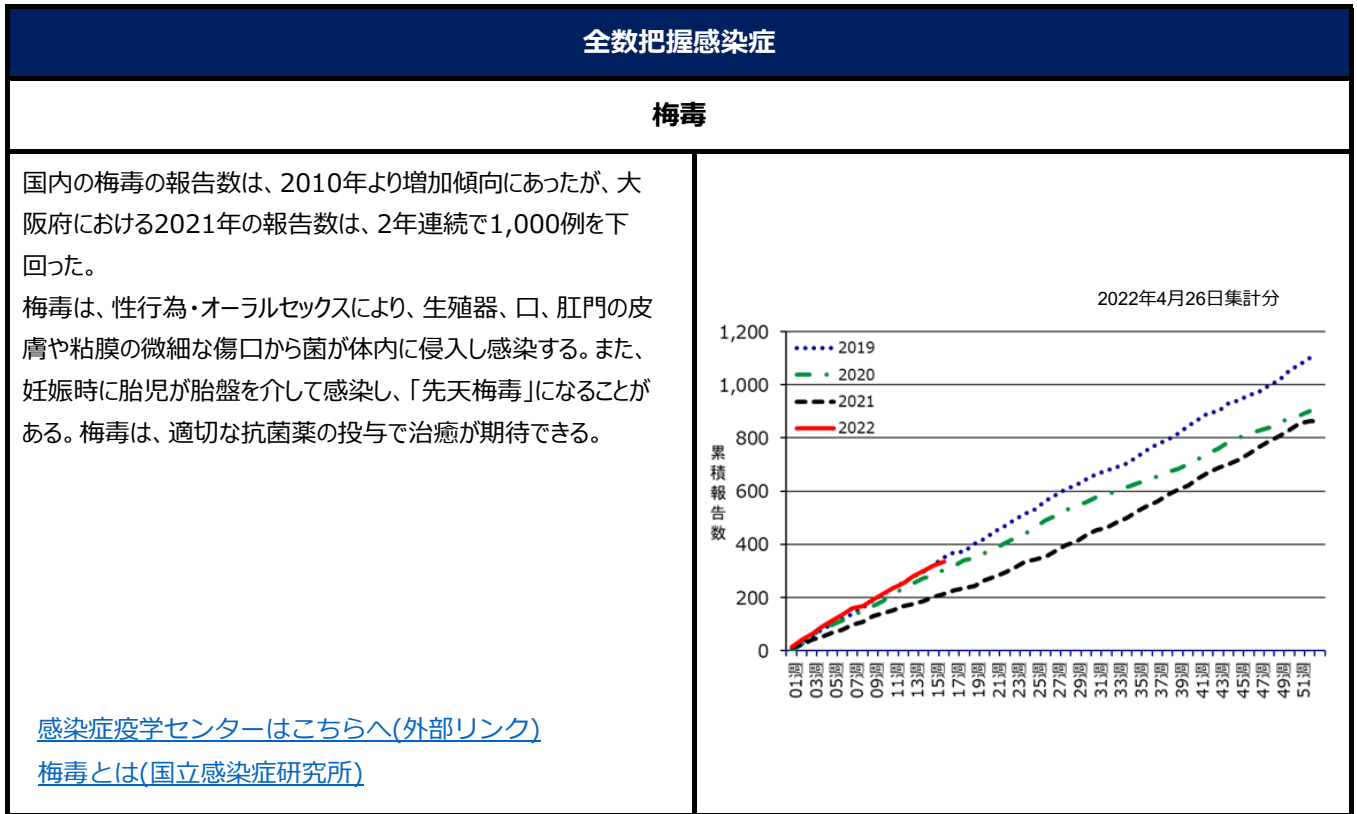


表 2. 大阪府全数報告数（2022年 第16週4月18日～4月24日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ( ) 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内							府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		大阪市
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1							1		10
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	23
	レジオネラ症（ポンティアック熱型）	1							1		
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3		2	1						28
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1							1		5
	後天性免疫不全症候群	1							1		22
	侵襲性肺炎球菌感染症	4		1			2			1	27
	梅毒	13	1	2	1				1	8	334
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	20,960	2020年1月以降累計 879,750								
結核 (2022年2月分)	結核 新登録患者数：40名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 14名) (府内累積報告数 92名、内 肺・喀痰塗抹陽性 37名)										

(2022年4月26日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。